

ノートパソコンを利用した「おわら」指導の一考察

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/36093

研究目的

富山県八尾町では、毎年9月1日～3日にかけて全国的にも有名な祭り「風の盆」が行われ、そこでは稲の豊作を願う盆踊り「おわら」が踊られている。

従来までの踊りの指導は、踊れる者が踊りながら行なうという指導であった。最近、街頭やお店ではいろいろなおわらの本や、ビデオなどが発売されるようになった。それにはおわらの踊り方が写真付きで載っていたり、中には踊りの教則ビデオなども発売されたりしている。実際に踊りを指導している我々からしてみれば、どれもこれも適当なものばかりであり、これではおわらを踊れるようになれないだろう、と思うような内容である。そこで指導者がいなくてもパソコンの利点を生かしておわらの新踊りの指導ソフトを作成しようと考えた。そして、そのソフトを利用すれば、どこにいる、どんな人でも風の盆やおわら踊りについて楽しむために必要な基本的知識、技術に気軽にふれ、より多くの人におわらについて知ってもらうことが可能になるのではないだろうか。

従って、本研究の目的は、八尾町のおわら踊り指導にイメージ映像や静止画などを用いたソフトウェアの開発と、そのソフトウェアを使用して実際に八尾町のおわらの踊り手に踊り指導を行い、踊りやその指導法に対する興味・関心、踊りの技術習得や理解力への効果を調べ、より効率的な踊り指導の方法を検討することである。

方法

1) ソフトの開発

Windows 9 8 上で、Internet Explorer5.5 (Microsoft 社) と Microsoft Word2000 (Microsoft 社) を使用しソフトウェアを自作した。イメージ映像は、デジタルビデオカメラ (VL-DH4000、シャープ株式会社製) で撮影した。撮影後、動画キャプチャーカード (I-O DATE 社製) を利用して動画をノートパソコン (VAIO PCG-XR1G SONY 社製) に取り込み、Ulead VideoStudio 3.0 SE (I-O DATE 社製) を使って動画を加工、動画の再生には Windows Media Player (Microsoft 社製) を使用した。

2) 実験方法

1. 被検者

八尾町のおわらの踊り子である中学生男子新踊り初心者 27 名 (実験群 14 名、対照群 13 名)

2. 期間・場所

平成 13 年 8 月 21 日～24 日の期間に、八尾町東町公民館において毎日 60 分ずつ 4 回の指導を行った。

3. 実験比較・分析方法

実験の流れは①事前アンケートを行う、②指導計画を立てる、③おわら新踊り指導を行う、④事後アンケートを行う、である。

①について、「新踊り」に対しての興味・関心・知識についてのアンケートと、パソコンを使うにことに関しての興味・関心についてのアンケートを行った。

②について事前アンケートからすべての被検者のおわら新踊り、パソコン操作に関して差はないと考えられたので、指導前に実験群 14 名と対照群 13 名の 2 つに分けておき、実験を行った。

③について、公民館の練習を行う部屋は1階と2階に分け、1階は指導者の指導とパソコンを利用する実験群が使うものとし、部屋の壁側には1台パソコンを設置し必要ときに何回も見てよいこととした。指導者のみの指導で行う対照群は指導者に踊りに関する質問・フィードバック等を求めるのみとした。

④について、練習をすべて終えた時点で、踊りや指導方法に対する興味関心や踊りの技術、今回の練習が今後に与える影響について問うアンケートを実施した。踊りの技術については、踊りの評価が特に明確ではなく非常に難しいため、自分の踊りと指導者のアドバイスや踊りから自己判断してもらった。

結果および考察

1) おわら新踊りに対する興味・関心への効果について

事後アンケート項目1において、あなたはおわらの新踊りに興味をもちましたかの質問に対し、実験群は興味を「もった13名」「もたなかった1名」、対照群は興味を「もった9名」「どちらともいえない4名」であり実験前と変わらなかったが(図1)、新踊りの奥深さ、難しさを実感し、より一層の踊りに対する探求心が生まれたように思われる。

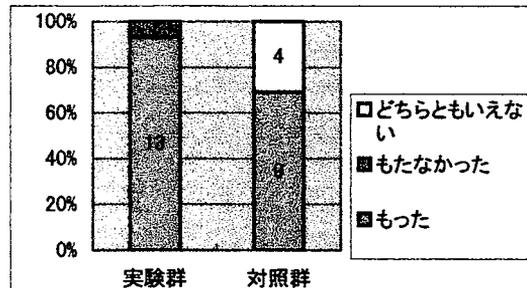


図1 「おわらの新踊りに興味を持ちましたか」に対する実験群、対照群の回答

2) おわらの新踊りの技術習得への効果について

事後アンケート項目19において実際に同じ練習グループの友達とは自分と踊り(指先や足先の動かし方)が一緒だと思いますかの質問に対し、実験群は「大体同じである7名」「どちらともいえない4名」「結構違う踊りをする3名」、対照群は「大体同じである7名」「どちらともいえない4名」「どちらともいえない4名」「結構違う踊りをする2名」であった(図2)。パソコンでは踊りの技術習得や統一に関する学習者へのフィードバック等を行うことができず、それに比べ指導者は学習者の踊りを見て練習生の踊りを細かく指導でき、その個人個人に合った指導をできるので技術の統一は可能であると考えられる。

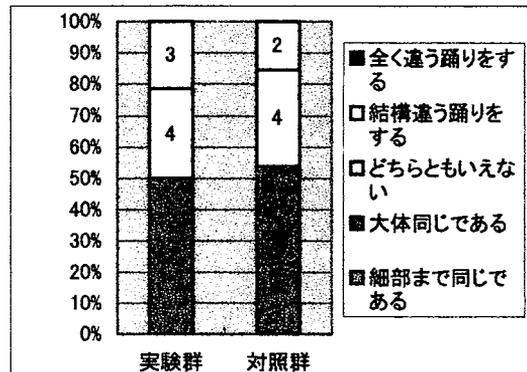
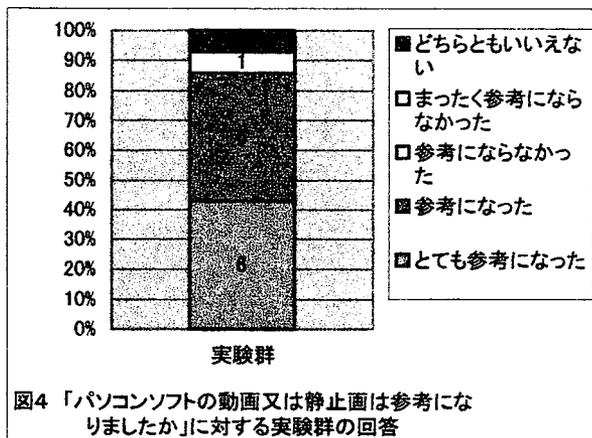
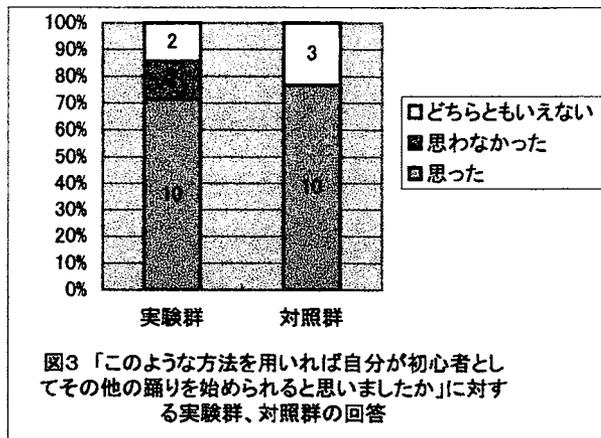


図2 「実際に同じ練習グループの友達とは自分と踊りが一緒だと思いますか」に対する実験群、対照群の回答

3) パソコンを利用した指導ソフト又は踊りの指導者の指導内容について

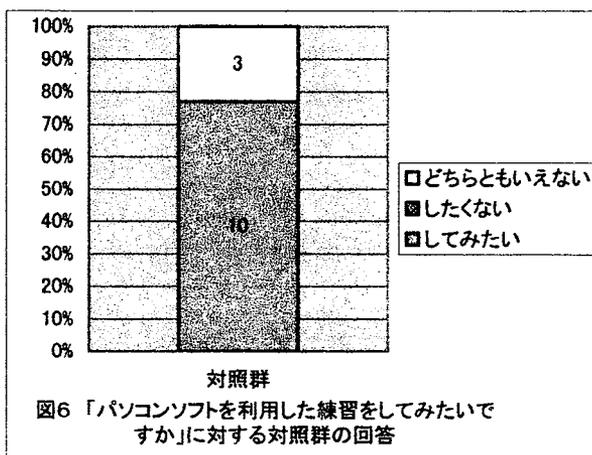
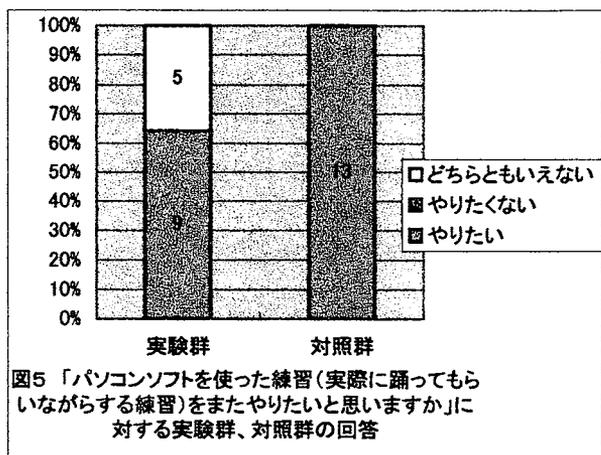
事後アンケート項目9において、このような練習方法を用いれば、自分が初心者としてその他の踊りを始められると思いましたがかの質問に対し、実験群は「思った10名」「思わなかった2名」「どちらともいえない2名」、対照群は始められると「思った10名」「どちらともいえない3名」であった(図3)。また、項目29において実験群にパソコンソフトの動画又は静止画(踊りのポイントを含む)は参考になりましたかの質問に対して、「とても参考になった6名」「参考になった6名」「参考にならなかった1名」という回答であった(図4)。これらからおわら指導においても、指導者がいる条件でパソコンに

よる指導の支援（アシスト）という役割は果たすことが可能であるといえることができないだろうか。



4) パソコンを利用した指導法が今後の風の盆や踊りの練習にどのような影響を与えるかについて

事後アンケート項目 11 においてこのような練習をまたやりたいと思いませんかの質問に対し、実験群は練習を「やりたい9名」「どちらともいえない5名」、対照群は練習を「やりたい13名」であった。また、項目 21 において今回の練習は楽しかったですかの質問に対し、実験群は「楽しい10名」「どちらともいえない4名」、対照群は「楽しい12名」であった (図5)。また項目 31 で対照群の被検者もパソコンソフトを利用してみたいという回答が多い (図6) ことを踏まえると、パソコンソフトを利用した踊りの指導は、学習者にとって新鮮であり、興味・関心をひきつけるものと考えることができる。今後のおわらの指導にも指導者のアシストとしてパソコンというメディア利用の可能性は十分考えられるのではないだろうか。



結論

- 1、 おわら新踊り指導においてパソコンを利用した指導法と、従来通りの指導者のみによる指導法との男子中学生おわらの踊り手に対して興味・関心における両群の差は見られなかった。
- 2、 今回の実験群のパソコンソフトでの踊りの技術指導での技術の統一は対照群に比べ有意差は見られなかった。また、パソコンにおける技術指導は個人に振り付けなどの簡単なものに関しては与えることはできても、フィードバックなどの高度な情報提供ができない。
- 3、 今回作成した指導ソフトはおわら指導においても、指導者がいる条件でパソコンによる指導の支援（アシスト）という役割は果たすことが可能であり、簡単な情報提供なら可能である。また、今後のおわらの指導にも指導者のアシストとしてパソコンというメディア利用の可能性は十分考えられる。

今後の課題

- 1、 今回作成したパソコンソフトでは簡単な技術指導や、情報を与えることしかできなかったことから、より詳しく、踊りの細かい部分に焦点を当てたソフト内容の作成が望まれる。
- 2、 本実験ではパソコンを利用する人数が14名であったため、パソコンは一台で指導を行ったが、パソコンの台数が少ないという意見もあり、被検者およびパソコンの台数を増やし、実際の指導現場に近い状況での実験を行うことが必要である。